

## 相愛大学研究シーズ集

シーズ名	漢訳経典における老病死とケアのイメージ	
所属	人文学部	人文学科
氏名	日高明	
【概要】	<p>老いや病や死は生物学的な構造や機能の変化ではあるが、それらの経験や表現は文化的・社会的に規定される。</p> <p>本研究は、漢訳経典を対象として、仏教的な世界観と目的のもとで老病死とそれらへのケアがどのようなものとして認識され、語られてきたかを研究する。これまでに、律蔵に描かれた出家修行者たちのコミュニティにおける看病のあり方について研究を行った。今後は大正新脩大蔵経の本縁部所収の『出曜経』『賢愚経』『撰集百緣経』等に多く収録される説話の分析を進める。</p> <p>「老病死とケア」に注目した仏教説話の解釈にあたっては、ジェラルド・ジュネットに代表される物語論の知見を活用する。また、特定の文化や社会において、個々の症状や能力低下がどのようなものとして認識され、どのような対応がなされているのかということを明らかにするための「老病死とケア」についての語り(ナラティブ)解釈は、医療人類学やナラティブアプローチを用いる社会学や臨床心理学等における研究を参照する。</p> <p>本研究によって、仏典の物語論的解釈のひとつの実践を示すとともに、現代における「老病死とケア」をめぐる諸問題に対して仏教的視点を提供できると考える。</p>	
キーワード	老病死／ケア／物語	